

式 辞（令和 2 年度入学生の皆さんへ）

4月に入ってからの寒の戻りにより、桜の花が見ごろを迎えた今日の佳き日に、めでたく本校に入学をされました新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、今日の日を誰よりも心待ちにしておられた保護者の皆様、本日は本当におめでとうございます。本校教職員一同、心よりお祝いを申し上げます。

さて、昨年から引き続き世界を騒がせている新型コロナウイルスの猛威によって、例年になく、規模を縮小しながらの式典となりましたことをまづもってお詫びいたします。しかしながら、昨日、政府により緊急事態宣言が発出された今、我々は丸となって新型コロナウイルスの感染拡大を阻止しなければなりません。一生に一度の高等学校入学式、入学生の皆さんは勿論のこと、この日を待ち望んでおられた保護者の皆さんにとりまして、非常に残念なお気持ちだと思いますが、何よりも、子どもたちの命や健康を守ることが最優先されなければなりません。ぎりぎりの選択の中で、本日の入学式のスタイルとなりましたことを、どうぞご理解いただきますようお願いいたします。

新入生の皆さんが入学されるにあたり、まず、本校の歴史について知っておいていただきたいと思います。本校は明治41年（1908年）、水口農林学校の創立がその始まりです。以来112年の歳月が流れましたが、実は本校の前身は、江戸時代末期の安政2年（1855年）に、水口藩校「翼輪堂」として創設されたところにさかのぼると言われています。「翼輪」とは、「飛ぶ鳥に両の翼があるように、また進む車に両輪が必要であるように、文武両道を追求する精神」を翼輪という二文字で表しており、この校風は現在も本校の教育の柱として脈々と受け継がれています。

また、大正8年（1919年）には、旧制水口中学校が県下三番目の県立中学校として設立されました。滋賀県では第一中学校（現在の彦根東高校）、第二中学校（現在の膳所高校）について、県内三番目の中等教育学校として誕生しました。ここ水口は古くから学問を尊ぶ先人達の向学心が高い地域であり、教育に対する多くの人々の熱い願いから本校が生まれたのです。以来110余年、甲賀地域の青少年教育さらには文化の中心として発展してきました。

こうした歴史をもつ本校は、鹿深（ろくしん）同窓会という強固な同窓会組織を持っており、これまでに28,203名の卒業生を輩出し、地元甲賀（こうか）の地はもちろんのこと、全国津々浦々で活躍しておられます。

皆さんは、こうした多くの卒業生の築き上げてこられた歴史のもと、学校の伝統を確実に受け継ぐとともに、さらに大きく発展させる使命を帯びて、本日、本校の門をくぐって来たのだということをしっかり胸に刻み込んでおいていただきたいと思います。

さて、昨年5月1日に、新しい時代・令和が始まりました。

皆さんは、令和最初の入学生となります。そんな記念すべき年に本校への入学を果たされたことに自信と誇りを持ってこれからの三年間を有意義に過ごしていただきたいと思います。水口高等学校が、明治、大正、昭和、平成と四つの時代を乗り越え、さらに新しい時代を切り拓いていく、その第一歩を君たちのその足でしっかりと踏みしめていただきたいと思います。

また、2022年4月、改正された民法が施行され、皆さんは18歳の誕生日を迎えると同時に成人となります。いろいろな場面で、成人としての自覚と責任が求められることでしょう。このことも踏まえ、高等学校在学中の三年間は、勉学に励むことは勿論のこと、ぜひとも人としての成長に心掛け、人間力を高める活動に力を注いでもらいたいと思います。

そこで、これから本校で高校生活を送られる皆さんに、私から3つのお願いをしておきます。どうか、卒業までにこの3つの事を自分のものにし、本校から巣立っていただきたいと思います。

1つ目は、あなた方には無限の可能性が 있습니다。自分の可能性をどこまでも追究できる人になっていただきたいということです。これまでの人生の中で、おぼろげにでも将来こんな風になりたい、こんな職業に就きたい

と思ったことはないでしょうか。常に10年後、20年後の自分のあるべき姿を想像しながら高校の三年間をぜひ過ごしていただきたい。そうすることで、自分の夢に向かって邁進することができるのだと思います。今、自分は何をしなければならないのかを考え、行動できるようになってください。もう一度言います。あなた方には無限の可能性が 있습니다。その可能性を生かせるかどうかは、これからのあなた方の生き方にかかっています。

2つ目は、心豊かな人間になっていただきたいということです。高校での三年間は、あなた方にとってかけがいのない三年間です。クラスで出会う友達や部活で知り合う先輩や後輩、いずれもあなた方にとって、あなたという人間を大きく成長させてくれる、かけがいのない存在になるはずです。大いに語り、大いに共感し、大いに悩んでください。こうした人との触れ合いが、あなた方の感性を大きく成長させてくれます。そして、こうした人との触れ合いの中で、常に感謝の気持ちを忘れず、笑顔を絶やさず人であってください。そうすることであなた方の、人間としての幅ができるのだと私は思います。

3つ目は、命の重みを忘れないでいてほしいということです。あなた方一人ひとりには、かけがえのない存在です。あなた方がこの世に生まれてきたのには、何らかの意味があるはずです。何らかの役割を果たすべく生まれてきたのです。従って、一人ひとりが誰にも代えられない大切な存在であることを決して忘れないでいただきたい。そのうえで自分を大切にするとともに他の人も尊重できる人になってほしいと思います。

そして、人の心の痛みがわかる人になってください。人にはそれぞれ持って生まれた個性があります。それぞれの個性を尊重し違いを認め合いながら、すべての生徒にとって安心して過ごせる学校であってほしいと思います。ぜひ、人の気持ちを想像しながら、人を思いやることのできるやさしい人になってください。

以上が、私からの3つのお願いです。ぜひよろしくお願ひします。

さて、保護者の皆様、本日、確かに皆様方の大切なお子様をお預かりいたしました。本日より本校教職員一同、全力を挙げてお子様方の指導に当たってまいりたいと思います。卒業までの三年間、学校とご家庭とでしっかり連携を取りながらお子様への指導を進めていきたいと思ひますので、ぜひとも学校での指導にご理解とご協力をお願いいたします。

学校とご家庭とは、自動車に例えるならば左右の両輪のようなものです。左右のタイヤが同じ方向を向いて進まなければ、自動車はまっすぐには進みません。学校とご家庭が心をつにして同じ方向を向きながら指導に当たっていききたいと思ひます。

何よりも、大切なのは子どもたちです。子どもたちの夢と笑顔を守れる学校であり、また家庭であってほしいと強く願ひます。子どもたちのために、一緒に頑張っていきましょう。どうぞよろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、三年後、ここにいる入学生の皆さんが各自の希望の進路を実現し、元気に次のステップに進んでいってくれること、そして、本日お預かりした生徒の皆さんを、笑顔で保護者の皆様のもとへお返しできる日が来ることを心より祈念いたしまして、式辞といたします。

令和2年4月8日

滋賀県立水口高等学校長 北川 良弘

